

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)ヒラノテクシード京都プロダクトリサーチセンター新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 竣工段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境						2.6
1 音環境		3.1	0.15			3.1
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40			
1.2 遮音		3.4	0.40			
1 開口部遮音性能	アルミ建具遮音性能 T-2	5.0	0.60			
2 界壁遮音性能		1.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音		3.0	0.20			
2 温熱環境		1.8	0.35			1.8
2.1 室温制御		2.6	0.50			
1 室温		1.0	0.38			
2 外皮性能		3.0	0.25			
3 ゾーン別制御性	工場部分は、ゾーン空調によりゾーン別の設定が可能	4.0	0.38			
2.2 湿度制御		1.0	0.20			
2.3 空調方式		1.0	0.30			
3 光・視環境		2.7	0.25			2.7
3.1 昼光利用		2.2	0.30			
1 昼光率		1.0	0.60			
2 方位別開口						
3 昼光利用設備	トップライト設置(2階ホール、多目的室)	4.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30			
1 昼光制御		3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25			
4 空気環境		3.5	0.25			3.5
4.1 発生源対策		4.0	0.50			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆	4.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.30			
1 換気量	工場エリア・事務エリア共、必要換気量の1.4倍以上確保	5.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33			
4.3 運用管理		3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50			
2 喫煙の制御		3.0	0.50			
Q2 サービス性能			0.30			3.2
1 機能性		3.3	0.40			3.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.40			
1 広さ・収納性	事務室面積:72.86㎡ 執務者数:5名 72.86/5=14.57㎡/人	5.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33			
3 バリアフリー計画		3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30			
1 広さ感・景観	CH2.8	4.0	0.33			
2 リフレッシュスペース	自販機あり 2階ホール 98㎡ > 事務室 72㎡ 1%以上あり	5.0	0.33			
3 内装計画		1.0	0.33			
1.3 維持管理		3.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30			2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		2.6	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		1.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	冷媒:冷媒配管用被覆銅管(CUP) C 排水:VP管 B	4.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20			
2.4 信頼性		2.8	0.20			
1 空調・換気設備		3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3 電気設備		3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5 通信・情報設備		2.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.6	0.30		-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1 階高のゆとり		1階の階高=8.5m	5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率=0.04	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.38		-	3.3
1 生物環境の保全と創出		保有林(山林)の維持	4.0	0.30		-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性							2.7
LR1 エネルギー				0.40		-	2.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.04		-	1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12		-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.89	2.5	0.60		-	2.5
4 効率的運用			2.5	0.24		-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00		-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			2.0	0.50		-	
集合住宅の評価						-	
4.1 モニタリング						-	
4.2 運用管理体制						-	
LR2 資源・マテリアル				0.30		-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60		-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		S造の為、躯体等の分別が容易、配管類は躯体への打込みなし	5.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50		-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				0.30		-	2.7
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2=94%	3.2	0.33		-	3.2
2 地域環境への配慮			2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		敷地内に空地を多く設け渋滞緩和に配慮している	5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33		-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音			3.0	0.33		-	
2 振動			3.0	0.33		-	
3 悪臭			3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.9	0.40		-	
1 風害の抑制			1.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制						-	
3 日照障害の抑制		日影規制:5h/3h(10m/5m)の地域で、4h/2.5hの規制をクリアして	4.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	